みんなの文芸

引間豐作選　投稿数25句

美の山の紅葉織りゆく朝陽かな　三沢　新井　弘延

（評）一見何でもないような句だが、平易な言葉で美を表現している。そして「美の山の紅葉」は、M音とN音（minoyamanomiji）で軽快なリズムをつくりだしている。正月なので触れておくと、旧暦時代には、「新年」はすなわち「初春」だったが、新暦時代となって、立春以前に「新年」がくることになったので、歳時記類でも四季の外に「新年」の部を立てるのが普通になった。変則ではあるが、国内にまだ旧暦正月を守っているところがあるので、やむを得ないだろう。

秩父路の汽笛峡へと山紅葉　金沢　田中　康穂

句碑の磴半ばで返す冬ぬくし　三沢　長谷河ソノ

ふしぎだな山がへんしんあかきいろ　皆野　太幡琉美花

祝（ほ）ぎことのしらせいただき冬温し　皆野　市川　岳樹

満天の冬星綺羅と友の通夜　三沢　眞下　杏子

山巓（さんてん）の木立染め消ゆ冬茜　三沢　新井　民子

髪カットただそれだけで年送り　下日野沢　鈴木　キク

木洩れ日を弾き飛びけり冬の鵙　皆野　根岸　詩子

年の瀬やダルマ熊手の出番かな　下日野沢　原　幸之助

庭褒める来客のあり菊真っ盛り　皆野　大沼シヅ子

年の暮何年ぶりか障子貼り　金崎　堀口あいの

名月や愛でて月見の宴あり　皆野　源氏　和幸

中田久惠選　投稿数22首

手に余る紫式部を笑顔ごと持ち帰る夫我古稀となる　三沢　鈴木　貞恵

（評）紫式部と夫の笑顔、古稀となった妻への珠玉のプレゼントである。円満で穏やかな光景が、幸せな夫婦像が見えて、胸にせまるものがあり、床しい秀歌である。紫式部とは、くまつづら科の落葉灌木で、高さ約三メートル、葉は長楕円形、夏葉のつけ根に淡紫色小漏斗状の花を開き、球形紫色の漿果を結ぶ。ここに一首「紫式部のうれ実光りて紫に寂しさとほる枯山の路」栗田寿美衛

時として迷路さまよふ心にも救う手のあり癒す趣味あり　皆野　豊田喜美恵

通院に嫁のいたわり老し身に幸せ湧きて感謝極（とせ）まる　皆野　新井　愛子

神々と先祖の御加護を給はりて生きるひと年感慨ふかし　三沢　新井　叶子

振り向けば喜怒哀楽のわが歩み七十九年の感慨深し　下日野沢　浅見　豊子

健忘症などと互いに言い合いて歩む八十路の健やかな影　皆野　根岸　詩子

一年の流れは早し冬に入り心に鞭打ち後れ取るまじ　皆野　関根　助市

夜祭の花火見下す鉱（や）区の灯に人の出入りの灯影乱るる　三沢　長谷河ソノ

冬日受け廊下に並ぶ花鉢に点滴のごと活力剤挿す　三沢　新井　民子

霜月の家路に秩父の街行けば心は躍る屋台囃子に　皆野　打木　昭広

三猿のイラストたのしき湯呑なり修学旅行の日光みやげ　三沢　眞下　杏子

快晴に渡るそよ風いとやさし千の風かも父母の面影　下田野　新井　節子

昔から言われて暮す難逃れ朝霧昇り一人茶を飲む　皆野　保科　従道

文化祭つたない短歌（うた）が会場にひととき見入り老は幸せ　下日野沢　鈴木　キク

のぞき見る天窓洞の地底湖は深き瑠璃色に身のすくみたり（西伊豆堂ヶ島）　皆野　市川　岳樹

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着　**1人1句、1首**に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

ほのみちゃん

駒形区
宮原　巧美さん
　　さやかさん
いつも笑顔をありがとう。
元気にすくすく育ってね。

杏莉（あんり）ちゃん

根岸区
矢島　英巳さん
　　洋子さん
これからも笑顔がかわいい
杏ちゃんでいてね。

1歳になる赤ちゃんを募集しています

ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までに総務課窓口（写真をご持参ください）または、町ホームページからお申し込みください。

問合せ　総務課企画政策防災担当　☎62-1231